

## 平成30年4月新年度（辞令交付式）あいさつ

30年度の新年度（辞令交付式）にあたり、ご挨拶申し上げます。

ただいま、辞令交付を行いました。今日から平成30年度のスタートであります。

今回の異動では、1名の定年退職、そして思いもよらなかった訳ですが7名もの依願退職があり、誠に残念ですが3月30日に皆さんと別れを告げたところであります。そして、代わりに先ほど辞令交付いたしました12名の新しい仲間をお迎えすることができました。

さらに、少なからぬ人事異動を行いました。思いがけない部署に配属され、「こんなはずではなかった」と、思っている人もいるかもしれません。

しかし、なすべき仕事と勉強すべき材料は無限であります。どの仕事も厳しく、その仕事も誰かがやらねばならないものですし、なくてはならない仕事であります。

また、限られた職員数の中で、愛知県、社協、北設広域、新たに東三河広域連合へ派遣、そして東栄病院も公営化するため8名もの職員を送り出すこととなりました。今までとは違った環境での勤務となりますが、頑張ってくださいと思います。

地域おこし協力隊員は昨年度と変わらず 3 名、そして、新たに集落支援員 1 名を委嘱しました。職員と連携して集落の目配り役として活動していただきます。

東栄病院については、みなさんをご承知のように、指定管理者制度により、11 年間公設民営（社会医療法人せせらぎ会）での運営をしてまいりましたが、平成 30 年 4 月から公設公営へ戻すことを決め、この 1 年間、担当課をはじめ関係する職員には大変苦勞をおかけいたしました。何とか体制が整い、せせらぎ会職員（正規職員 41 名）も我々と同じ公務員という立場で働いていただくこととなり、今日から無事にスタートできたことを心より感謝を申し上げます。そして、一年間かけて取り組み、策定いただいた「東栄町地域包括ケア推進計画（第 8 期高齢者福祉計画）」と「東栄町医療センター（仮称）等施設整備 基本構想・基本計画（案）」をもとに、目標に向かって全力で取り組んでいかなければなりません。関係職員は言うまでもありませんが、他の職員においても、東栄町の将来においての重要な施策となりますので、他人ごとにはせず関心をもって一緒に考えていただくことをお願いしておきます。

次に、新規に採用された職員の皆さんが、私たち役場職員の仲間として、新たに加わっていただいたことを、大変うれしく、心強く思います。代表の方に宣誓書を読み上げていただきました。宣誓の内容は、絶対に忘れないよう、公務員として心にとめておいてください。年齢にかかわらず、この辞令交付というセレモニーに、大変緊張していることと思います。この緊張感、そして役場職員としてスタートする日の気持ち、初心を忘れないでください。

今、市町村行政は、大変厳しい環境にあります。少子高齢化や人口の減少など、今後住民へのサービスをどのように維持し、多様化する町民ニーズに伝えていくのか、財政力の弱い我々のような町は、このような時こそ、前向きな発想と行動力をもって皆さんと共に前向きな議論をしていかなければなりません。地域社会を担っていくのは「人」でありますから、我々役場職員だけでなく住民と一緒に「協働によるまちづくり」を進めていかなければならないと考えています。

私が目指す「町民主役のまちづくり」を念頭に、一人ひとりの小さな思いや行動が世代を超えた未来への橋渡しとなるよう、町民、議会、行政が手を取り合って、まちづくりを推進するための仕組みとして、

「東栄町まちづくり基本条例」を制定し、この4月から施行します。

是非、皆さんも読んでおいていただきたいと思います。

行政は、よく前例主義と言われます。前例にならって仕事をすれば確かに大きな間違いはないかもしれませんが、前例を踏襲<sup>とうしゅう</sup>するだけでは、リスクは少ないかもしれませんが、前進はありません。時代は常に動いています。常にアンテナを張りながら、新たな発想を打ち出しておいていただきたいと思います。

個々の能力を発揮することはもちろんありますが、職員同士の力を結集し、課や係がチームとして、町民のために努力していただきたいと思います。仕事は、自分ひとりではできません。お互いの信頼関係が必要です。常に相手を思いやり、お互いにコミュニケーションが図れるよう努めていただきたいと思います。私の年代からすると職場環境は激動の時代に入っています。メンタルヘルスケアが必要にならないように気分転換も図っていただきたいと思いますし、そんな職場における人間関係ができるよう願っています。

過去における職員採用を計画的に行ってこなかったことや早期の退職などにより、職員の年齢構成や経験年数にばらつきがあり、役場の組織体制に影響が出始めています。（保育園も同じです。）ここ数

年、退職者も多いことから、新規の採用者が増え、職員も若返っております。今後も数年間は定年退職者がありますので、ますます若返りが進む見込みです。

部署の配置転換もありますが、若い世代との入れ替えの時期でもあり、若い世代の職員を育てていくことが、東栄町の行政力を高めていくためには必要であります。幹部職員の皆さんには是非とも若い職員を育てていくためにご尽力をいただきたいと思っております。

我々も初めて役場に入ってきた日を思い出し、初心の気持ちを大切にし、新しい気持ちになって仕事に取り組んでもらいたいと切に思うところであります。

最後に、日頃、職員の皆さんにお願いしていることを改めて申し上げます。

「あいさつは明るく、笑顔で、自分から」まず、何をおいても挨拶を先にしてください。「お礼、お詫びは早くする」「できない理由を探さない」「できる知恵を見い出す」

今回も様々な配置換え等がありました。すべてにおいて、希望どおりはあり得ません。

どうか、できない理由をさがさないで、やれる方法を探して、可能

性を見出していただきたいと思います。

いよいよ私の任期も残すところ1年となりました。目標をもって進めてきたつもりですが、さらに将来につながる年としていきたいと思ひます。

職員の皆さんには、苦勞をお掛けしたことが多々あったかもしれませんが、私一人だけで仕事はできません。ましてや目標も達成することはできません。

どうか、すべての職員の皆さんが、地域のため、地域住民のために何ができるのかを絶えず考えながら、今年一年業務に取り組んでいただくよう期待します。

先ほども申し上げましたが、残された任期は1年ですあります。第6次総合計画で定めた政策の着実な実行が私に課せられた使命であると考えています。そして、東栄町にとって、今年1年が将来を左右する重要な年になると思ひます。一步ずつ着実に歩みを進めていくことを全員で改めて誓い、この一年間取り組んでいただくことをお願い申し上げ、挨拶といたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

平成30年4月2日

東栄町長 村上孝治